



Newsletter

発行元 : SID日本支部
発行責任者 : 近藤 克己
発行日 : 2011年 1月16日

日本支部

第 46 号

支部 HP URL : <http://www.sidchapters.org/japan/>

新支部長挨拶

東京農工大学 飯村靖文



今回、前支部長近藤克己氏の後任として SID 日本支部支部長の任に就く事となりました、東京農工大学大学院の飯村靖文です。これまでに SID 日本支部支部長に就任された方々のお名前を伺う程に、支部長の重要性を再認識しております。これからの二年間、多少でも日本のディスプレイ産業発展に貢献できるよう、SID 日本支部の活動を推進してまいりますので、今後も日本支部への変らぬご援助・ご助言をよろしくお願いいたします。

月日が経つのも早いもので、私が SID との係り合いを持つようになって、すでに 20 年近くになります。当時、理化学研究所から東京農工大学小林駿介教授（現在、山口東京理科大学液晶研究所所長）の下で助手として採用され、液晶の研究を再開し始めた頃です。研究を再開したと書きましたが、私は修士課程まで液晶配向の研究を小林先生の指導のもと行っており、その後 10 年ほどの期間液晶分野の研究から離れておりました。東京農工大学に移った当初、液晶の何を研究するかで非常に頭を痛めた事が思い出されます。その頃国際液晶学会のニュースレターだったと思いますが、液晶分子を光で並べるといふ記事に刺激され、まず光配向の研究を始める事にしました。ちょうどその頃は、LCD を CRT に代わるコンピュータ端末として用いる事が考え始められた時期であり、薄膜 TFT の研究と共に如何に視覚特性の優れた LCD を作るかが重要な研究テーマとなっておりました。当初は、その頃主流の表示モードであった TN 表示方式に、様々な方法の画素分割技術を組み合わせて視野角特性を改善する研究が盛んに行われておりました。先に書きましたが、当時私は光配向の研究に取り組み始め幾つかの論文を発表しておりましたが、その技術を画素分割に適用する事はあまり考えていませんでした。幸いだったのは、当時の小林研究室には企業からの研究生が何人か来られており、常にそれら企業からの研究生と議論ができた事です。彼らとの討論の中から、光配向を画素分割に適用するにはプレティルト角発生が重要であることに気づき（現在では、全く当たり前と思いますが）、世界で最初に光配向によるプレティルト角発生およびその技術を用いた四分割 TN-LCD 作製に成功しました。その後私の光配向技術の研究は VA や IPS モードへと移りましたが、それらの研究がタイムリーにできたのも、様々な企業の研究者の方との会話が重要な役割を果たした事は否定できません。この様な経験を通して、如何に色々な方々とお会い議論する事が技術の研究開発にとって重要な事を、強く認識いたしました。昨今日本のディスプレイ業界の現状をみると、商売的にはなかなか厳しいところがあるのが現実だと思います。しかしながらこのような現状を打破するには新規な技術開発の促進しかなく、そのためには大学・企業間や異種企業間の人的交流の活性化が非常に重要であると思います。この様な事から SID 日本支部の重要な使命の一つは、ディスプレイ業界に関わる大学や企業の方々により多くの人的交流の機会を提供し、彼らに今後のディスプレイ技術開発のよき刺激を与える事だと思います。さらに、今後ディスプレイ業界への係り合いを希望する学生や企業等への啓蒙活動を通してディスプレイ産業のすそ野を広げ、ディスプレイ業界のさらなる活性化を図る事も重要だと思います。

ご存じのように、SID 日本支部は米国 SID の下部組織であり、米国を除いた国の中で最大会員数（現在 800 人程度）を誇っております。この事実は、現状においても日本のディスプレイおよびその関連産業が世界のトップレベルである事を物語っています。現在 SID 日本支部では、米国 SID 等の国際学会の報告会、夏の学校、

IDW チュートリアル講演会を主催や IDW 参加学生への参加費援助等や、国内の各種委員会（映像情報メディア学会・情報ディスプレイ研究委員会、電子情報通信学会・電子ディスプレイ研究専門委員会等）と連携して様々な研究会を共催しております。この様な機会を通じて会員の皆様方へのサービスを行うとともに、日本のディスプレイ産業発展への貢献をしております。

今回私を含めた SID 日本支部役員改選に当たり、新たなメンバーをお迎えすることができました。SID 日本支部の運営において前支部長の近藤氏のように上手いかなと思いますが、新規役員を含めたメンバーと協力して今後二年間 SID 日本支部のさらなる発展を目指したいと思います。会員の皆様においては、今後とも SID 日本支部の活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

支部長退任挨拶

シャープ（株） 近藤克己



S I D日本支部の運営に際し、評議委員の先生方を始め諸先輩方々にご指導ご支援を頂き、また役員の皆様には献身的にご尽力頂きました。副支部長時代も含めて4年間ありがとうございました。

就任時の本ニュースレターでは、支部の役割は「ディスプレイの魅力ある将来性を多くの方々に紹介し、人や技術の出会いの場を提供することにある。」と述べさせて頂きました。私事で恐縮ですが、昨年シアトルの Display Week に参加した際に、感動的な出会いがありました。学生であった私に S I Dを最初に紹介下さったあの Berreman 博士が Jan

Rajchman 賞を受賞され、Reception にて実に 28 年ぶりに再会を果たし、博士に改めてあの時に熱心にお誘い頂いたことに対して御礼を申し上げる機会に恵まれたのです。S I D会員の特に若い方々には、有益な出会いの場をたくさん作って頂けたら幸甚です。

一方、ここ2年間のディスプレイ業界並びにS I Dの状況を概括しますと、かつてない激動の中にあったと言えるのではないのでしょうか？一昨年 San Antonio でのシンポジウムでは米国発の信用不安による各社の経営状態の悪化に加えてインフルエンザの流行が重なり、例年になく参加者数の減少に見舞われました。会員数が大幅に減少し活動可能な範囲にも影響する事態になり、本部ではその対策について活発な議論がなされました。日本支部でも 1000 名を超えていた会員数が一気に 700 名規模まで減少しました。このような中、支部の役員会や評議委員会ではS I Dの役割、日本支部の活動理念の原点に立ち返り、継承すべきもの、見直すものについて真剣な議論が繰り返されました。結果、サマーセミナーや学生支援活動のような会員サービスに関する全ての行事の継続を決め、並行して会員発掘活動を続けて参りました。I D Wの各種委員会、映像情報メディア学会、照明学会等関連学会の皆様にもご尽力頂き、現在では会員数減少に歯止めがかかり会員数は回復基調にあります。

S I D本部全体でも新しい動きが活発化しており、ディスプレイ学会・業界が大きく変容するための施策が具体化しつつあります。従来北米を本拠地としてアジアそして欧州の3大拠点が活動の主体でしたが、現在その活動の地域が広がりを見せております。昨年秋にブラジルでI D R Cが開催されました。南米初の開催であり、今後新興国を含めて活動地域が拡大・活発化することは間違いのないでしょう。S I D本部では新興国での人材育成や組織立ち上げも教育的観点から重要なミッションと位置づけて、具体化に向けた検討がなされています。

日本支部の会員の皆様それぞれの役割もこのようなグローバルな動きの中で、どのように変遷して行くのか、色々な議論が必要でしょう。2011年は飯村新支部長のリーダーシップのもと、昨年と同様強力な役員構成により活動を推進されます。今後とも支部活動へのご支援をよろしく申し上げます。

Asia 担当副会長退任挨拶

鳥取大学 苗村省平



私は 2010 年の 5 月に SID のアジア担当副会長の任務を終えました。現在は香港支部所属の H.S. Kwok 教授（香港科大）がその任に着かれています。

このアジア担当副会長(Regional Vice-President, Asia)という職は SID の役員でも少し色合いが異なるかと思しますのでこの機会に紹介しておきます。

役員会(Executive Committee)の「ライン」は会長(President)－次期会長(President-Elect)－財務(Treasurer)－総務(Secretary)」という構成になっており、それぞれ任期 2 年で、「典型的」には総務就任後 8 年間のお勤めの最後の 2 年間に会長としての職務に就くことになっています。その間に副会長という職務はありません。会長退任後の 2 年間は前会長(Past President)として役員会のメンバーに留まります。では副会長とは何かといいますと、アメリカ・ヨーロッパ・アジアをそれぞれ担当する 3 名が、毎年それぞれの地域に属する支部のメンバーの選挙によって選任されます。最長で 4 年間、上記の 5 名の役員とともに役員会のメンバーとして SID の運営に係わることになるのです。この役員会の下に理事会(Board of Directors)があり、そこには各支部選出のダイレクターの皆さんが所属しています。ですから、アジアの 8 支部["北京(BJ)" "香港(HK)" "インド(IN)" "バンガロー(INB)－私の在任中に創設されたアジアで 8 番目の支部です" "日本(JP)" "韓国(KO)" "シンガポール/マレーシア(SG)" "台北(TP)"]のダイレクターとのコミュニケーションを通して各支部・理事会と役員会の間を取り持つことがアジア担当副会長の主な任務です。実際には、e-mail などでの頻繁な意見交換を経て年に 3 回開催される役員会の会合で合議されたアクションアイテムの中で、アジア地域での SID 事業に関する案件の実行を担当することになります。該当する支部のダイレクターとコミュニケーションをとり、支部活動を通じての実行を支援する仕事です。

皆様ご承知の通り、SID の会員は約半数が日本支部を筆頭にアジア地区に在籍しています。SID の活力はアジア地区の支部・会員の活動にその源泉があるといっても過言ではありません。SID 役員会の認識もその通りです。会員数の面では韓国支部の伸張に著しいものがありました。一昨年頃には日本支部同様に会員数が激減するというショックに見舞われました。絶対数は小さいものの台北支部でも同じでした。このような状況から如何に回復を図るか、また中国という大きな「会員市場」をどう開拓するかがアジアのみならず SID 全体の大きな課題でした。必ずしも満足のいく結果が得られたわけではありませんが、そのような時期にアジア担当副会長としての任務を遂行する機会を得て、個人的にはまたとない経験をすることができました。そこで感じたことは、大げさに言えば国際政治・外交と共通する難しさであったと思います。世界を射影した SID という社会は international ではなく multi-national であるということを感じました。

21 世紀の科学の言葉でいえばまさしく「複雑系」であり、それは時間の矢（不可逆性）に貫かれた不安定（非平衡）のなかで微妙なバランスをとりながら保たれている動的平衡状態にあるということです。決定論的な安定解を求めるパラダイムは通用しません。世界は局所的な釣り合いのない不安定な状態で大域的な釣り合いを保ちながら発展していく開いた系であるという認識が必要だと思えます。この経験を生かして、ディスプレイ産業やその科学技術分野での学会活動において、日本が世界とともに発展していけるように、日本支部メンバーの一人として「創発」の一助になればと願っています。

退任後すでに半年以上が過ぎましたが、この紙面を借りまして、在任中の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

SID 日本支部主催 第 6 回サマーセミナー報告 ソニー (株) 豊村直史

8月23日、24日の2日間に渡り、静岡県三島市東レ総合研修センターにてSID日本支部主催サマーセミナー(校長:パナソニック(株)打土井氏)が開催されました。本セミナーは各種ディスプレイの基礎講座と受講者のニーズを先取りする最新トピックス講演で構成されております。第6回を数える今回は学生・企業の若手エンジニアを中心に33名の受講者をお迎えし盛会のうちに開催され、受講者の皆様より大いにご満足頂けたとのお声を多数頂戴する事ができました。

それもひとえにご多忙の中駆けつけて下さいました講師の先生方、ご協力を頂いた皆様方のお陰でございます。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

篠崎大祐

(シャープ(株))

講演では、独学では理解しきれない部分を補えるように丁寧に説明して頂き、FPDに関わる技術者として身につけておくべき色覚・表色や液晶と光の関係、有機ELの発光原理について改めて知識を整理することが出来ました。展示会や学会で市場の動向を調査する際にも、そのような知識が大いに役立つと思います。また、今後の市場で必要とされる3Dの表示技術や電子ペーパー技術も詳しく説明して頂いたことで、自分自身が未来を創造していく技術者としてどうあるべきか、ということを考える良い機会でした。若い技術者がプロの技術者の方や同業他社の年齢が近い方々とコミュニケーションを取ることが出来る非常に貴重な場であり、研究に対するモチベーションが一層向上致しました。得られた知識、人脈、経験がとても多く、非常に有意義な2日間でした。

神取由典

(静岡大学)

私は大学で忠実色再現システムのカメラ側の研究をしており、ディスプレイ側の知識を深めたいと思い参加しました。電子ディスプレイに関しては大学院の授業で基礎的な部分は学びましたが、今回のサマーセミナーでは、CRTから始まった電子ディスプレイの歴史や、LCD、PDP、OLEDなど、これまでの最前線の話、電子ペーパーや立体ディスプレイなどのこれからの展望を一度に聞くことができたので、とても有意義でした。また、スライドを見て話を聞くだけでなく、ビデオを見たり、サンプルを回して手にとって見られたのが非常に分かりやすいと感じました。今回初めてSIDサマーセミナーに参加しましたが、ディスプレイの研究、開発をされている方はもちろん、これから研究、開発を始める方にも分かりやすく説明していただいたので充実した2日間でした。

SID 日本支部 新役員体制のお知らせ

11月18日-12月9日の間にSID日本支部役員に関する電子投票を行った結果、下記のとおり、新役員が決定しました。

- 支部長 飯村靖文 (東京農工大学)
- 副支部長 辻村隆俊 (コニカミノルタ)
- 庶務幹事 豊村直史 (ソニー (株))
- 会計幹事 志賀智一 (電気通信大学)
- 庶務幹事補佐 加藤浩巳 (シャープ (株))
- 会計幹事補佐 三浦登 (明治大学)

編集後記

41号から46号までNewsletter編集を担当させていただきました。

ご多忙にもかかわらず原稿執筆を快くお引き受け下さった方々にこの場をお借りし深くお礼申し上げます。

編集担当: 豊村直史 (ソニー) Naobumi.Toyomura@jp.sony.com